

氏名	櫻井育穂	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	小児看護学、思春期看護学				
学位	修士（看護学）				
学歴	1997年北里大学看護学部看護学科卒業、2007年北里大学大学院看護学研究科博士前期課程修了				
経歴	2013年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師 2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本小児看護学会、日本小児がん看護学会、日本思春期学会、日本小児保健協会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	こどもの病態とケア；ナースと専門職のために 改訂第7版	共著	あり	へるす出版、全456頁		窪田 満, 西村 範行, 仁宮 真紀, 花木 啓一, 平田 美佳（編） 櫻井育穂	2026.02
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし						
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし						
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別		研究期間	
1	科学研究費助成事業 基盤研究（C）	障害をもつ子どもの成人移行準備を促進するためケアパッケージの開発・標準化・実装		研究代表者		2023.4～2027.3	
2	科学研究費助成事業 基盤研究（B）	AYA世代がん患者・サバイバーの経験するマイクロアグレッションの実態解明と学際的支援モデル構築		研究分担者		2024.4～ 2028.3	
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	小児看護学Ⅱ		3	周手術期の子どもと家族への看護、障がいのある子どもと家族への看護について、理論やガイドライン、学術論文等を参考に講義を行い、看護国家試験における状況設定問題への対策として、上記疾患の病態生理・治療・看護について事例を用いた。			
2	家族看護		1	小児看護における家族の特徴および家族への看護介入について、小児看護の事例および家族看護理論を用いて講義を行った。また、動画を用いることで、学生の対象の理解を深めた。			
3	看護倫理（大学院）		2	6名受講。担当者として小児看護における倫理的課題（IC,代理意思決定、プレパレーション）について、文献および研究等を用いて講義した。また、学生の学習内容及び実践事例をもとにディスカッションを行い理解を深めた。			

4	地域ケア支援論（大学院）		2	5名受講。担当者として地域における小児看護の現状および課題（代理意思決定、成長発達支援、家族看護）について、文献および研究等を用いて講義した。また、学生の学習内容及び実践事例をもとにディスカッションを行い理解を深めた。
（2）演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学Ⅲ	○	16	学内実習を伴うPBLチュートリアルの学習方法を用い、学生が自主的に学習できるよう、科目責任者として円滑化を図り、且つチューターとしての役割を果たした。シミュレーションを通し、事例のイメージ化を図り、事例シートは実習等で活用できるよう、小児看護に特徴的な疾患をより臨床に即したデータや病状を用い作成した。
2	子どもの保健	○	16	講義形式による知識・役割理解を促し、その後演習を実施。演習シートを作成し、技術演習の方法に加え、ケアの根拠や臨床上のポイントを記し学生の評価を得た。
3	小児看護学Ⅳ		15	事例に即した、小児看護学特有の看護技術についてロールプレイ等を用いて指導し、実践における根拠を検討できるようファシリテートした。また、技術テストをに向けて自主練習をサポートするとともに、試験を実施することで安全への意識を高めた。
（3）実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学実習	○	2025.9.10～12	1グループ2週間実習を5クール実施。子どもの権利を理解し、対象を理解し統合的に捉え看護の必要性和方向性を考え、実践・評価できるよう、1クール中にカンファレンス（毎日）・看護記録の助言（毎日）・個別面接（2回）実施。さらに、医師からの臨床講義を調整し、学生の疾患の理解を深めた。また、子どもの安全・安楽を守る事ができるよう臨床指導者との連携のもと付き添うことで、事故なく実習を終え成果を上げた。科目責任者として、ルーブリックを用いた実習評価を導入することで、学生・教員間の評価の共有を図った。
2	IPW実習		2025.4～10	実習担当者として1グループを担当し、円滑な実習運営のため、施設との打ち合わせ、実習準備・調整、2回のオリエンテーションを実施し、学生のサポートを行った。また、施設担当者と連携し、実習が円滑に行えるよう助言し、実習中は学生の面談等を実施した。最終発表会では施設の指導者からも良い評価を得た。
（4）論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2025.4～2026.1	主指導 4名	副指導 名
2	修士論文	2025.4～2026.3	主指導（指導教員） 1名	副指導（指導補助教員） 1名
（5）その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	就職支援	2026.3	看護学科4年次生3名に対して、県内就職支援として、自己推薦書の添削、面接の指導。	
2	学生への就職相談	2025.4～2025.9	卒研を通して学生の就職相談を実施した。	
3	卒業生へのキャリアアップ相談	2025.6	卒業生1名へのキャリア形成について相談および助言を行った。	
4	埼玉県立小児医療センター看護研究指導	2025.4～2026.3	臨床看護師の看護研究3件について相談および助言を行い、学会発表へ向けた指導を実施した（年5回）。	

4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	第34回日本小児リウマチ学会総会・学術集会	日本小児リウマチ学会成人移行	成人移行期にある小児リウマチ患者への支援の充実に向け、グループワークファシリテーター	2025.10
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	日本小児看護学会	専任査読者		2022.9～2026.8
2	一般社団法人 思春期看護研究会	理事、事務局長及び総務会計		2020.4～現在
3	日本思春期学会学術集会	特別なヘルスケアニーズを有する若者のための思春期保健検討委員会メンバー		2024.4～2026.3
4	日本小児リウマチ学会	メディカルスタッフ育成ワーキンググループ委員		2020.4～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	埼玉県立小児医療センター	移行期支援テキスト（中学生向け・家族向け）HP資料作成・掲載	2020.3～現在
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	研究推進委員会 奨励研究部会		2025.4～現在
2	学生支援	看護学科1年次担任、就職支援担当者会		2025.4～現在
3	大学広報活動	オープンキャンパス模擬授業		2025.6
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			